

【成果概要】2-1. 夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査

調査結果の概要

■ 今年度の成果

- 茶栽培への影響予測評価のフレームワーク・手法案を検討した。
- 静岡県農林技術研究所の作況調査※に基づく茶樹の生育データと最寄のアメダス観測値を用い、夏季の気温・降雨と翌年一番茶の収量(生産者にとって経済的に重要な指標)との回帰分析を試行した。
- 静岡県域全体の茶園位置図を作成し、既存の土壤分類図を整理した。

【夏季の高温・少雨による茶栽培への影響について得られた知見】

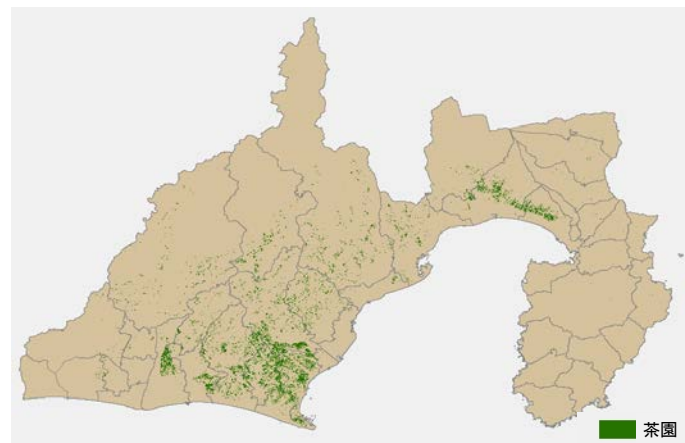
- 夏季の高温・少雨による影響として、1994年から1995年夏にかけて2年連続で高温・少雨が発生した牧之原台地周辺の茶園の事例、当該年に摘まれる三番茶に及ぶ影響、翌年春に摘まれる一番茶に及ぶ影響等が、既往文献から確認できた。ただし、その影響の程度についての定量的な知見や相関分析等の知見は得られていない。
- 4～5月に摘まれる一番茶は、二番茶や三番茶に比べて高値で取引されることから、茶栽培農家にとって重要となる。
- 収量については、研究機関が設置している専用茶園「作況園」(毎年同様の管理を実施)における作況調査に基づく作況データを使用することが適切。
- 少雨による茶樹への影響は、茶園が位置する土壤の保水力によっても異なる。

■ 明らかとなった課題

- 気象条件と収量の相関分析において、一定程度のデータ量確保や静岡県より高温な地域のデータの補完のため、他県の作況データも使用することが考えられる。
- 春の霜害が生じた年や少雨の際に灌水を行った年を分析データから取り除くなど、得られる情報から、夏季の高温・少雨以外の要因を極力取り除いて分析していく必要がある。

■ 来年度の調査計画

- 静岡県をモデルとした予測評価手法の検討
- 静岡県、関東地域における茶栽培への影響の予測評価の実施
- 適応策の検討



静岡県内の茶園位置図

出典:「国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ」をパシフィックコンサルタンツ株式会社が加工して作成。



砂質土の茶園で発生した葉焼け
(1994年8月、静岡県相良町)

出典:『茶大百科 第2巻』
一般社団法人農山漁村文化協会

※作況調査

気象要素と生育収量の実態を把握し、相互の関係を明らかにすることを目的として、地方ごとに行われる萌芽・生育状況調査及び実収調査のこと。全国にある茶研究機関では、一部を除き、専用茶園「作況園」(毎年同様の管理を実施)を設置し、生育・収量の調査を行っている。